

男女平等参画社会の実現に向けて

男女平等情報紙「よつばの手紙」第17号を発行しました

「よつばの手紙」は、市民等との協働により企画・編集しており、自治会を通して自治会加入世帯に配布するほか、市役所、各市民センター、中央図書館等の市内公共施設や、JR青梅駅・東青梅駅・河辺駅の各駅にも置いてあります。



男女平等推進計画進捗状況報告書

男女平等参画社会の実現に向けた事業計画である「第五次青梅市男女平等推進計画・青梅市プラン」に掲げている取り組みの進捗よく状況について、平成28年度の報告書とをまとめました。

市民提案協働事業 あそびにおいてよ！あまがさすの森へ

成木の豊かな自然の中でのびのび遊んで過ごしませんか。さあ、どきどき、わくわくを見つげに行こう！

男女平等参画啓発講座 働く女性のスキルアップパソコン講座

仕事で使えるエクセル関数やビジネスシーンで活用できるパソコンスキルを学びたい。そんな働く女性のためのパソコン講座です。

青梅市生涯学習推進市民会議企画講座 みんなで踊ろうフラダンス

フラダンスの基礎を習い、アニメーション映画の主題歌に乗せて楽しくみんなで踊りましょう。

家庭教育講演会 小学校に入るまでに知っておきたい5つのこと

子どもが小学校入学を迎えるにあたり、不安や悩みを抱えていませんか？

集まれおうめっ子 食の巻

11月19日(日) 午前9時～午後3時(8時30分受付開始)

費用 510円(テキスト代) 持ち物 筆記用具

その他 託児あり(2歳未満就学児・予約制)

申し込み 氏名、電話番号、託児の有無(有の場合はお子さんの氏名・生年月日・性別)を電子メール

動きやすい服装(スカート貸し出しあり)、タオル、飲み物

申し込み 16日から電話で社会教育課へ



講師 杉並区立桃井第一小学校教諭 秋元平良氏

費用無料 申し込み 16日から電話で社会教育課へ

申し込み 16日から電話で社会教育課へ

その他 保護者の参加・見学不可

主催 青梅市青少年委員協議会

申し込み 16日から電話で同協議会事務局(社会教育課内)へ

東京文化財ウィーク2017

より多くの皆さんに文化財を身近に感じていただくために、都内全域で国・都指定の文化財が公開される「東京文化財ウィーク2017」が10月28日(土)から11月5日(日)まで開催されます。

市内でも多くの文化財が公開され、各文化財の公開場所に「解説カード」を設置します。また、郷土博物館では、「東京文化財ウィーク2017パンフレット」を無料で配布します。

市内で公開される文化財 各文化財の公開日・公開時間等の詳細は、「東京文化財ウィーク2017パンフレット」または「東京文化財ウィーク」ホームページ http://www.syougai.metro.tokyo.jp/sesaku/week.html でご確認ください。

文化財解説ボランティアによる解説を行います 期間中、原則として土・日曜日、祝日の午後1時～3時に「文化財解説ボランティア」が「郷土博物館」および「旧宮崎家住宅」で解説を行いますので、お気軽にお声かけください。

特別公開 日程 10月28日(土)～11月30日(木) 会場 郷土博物館

内容 国指定重要文化財…寺改戸遺跡土壇出土品(注口土器・小型深鉢形土器) ▶ 都指定有形文化財…駒木野遺跡26b号住居跡出土土器、青梅新町開村記録、旧多摩郡新町村名主吉野家文書 ▶ 市指定有形文化財…谷合氏見聞録 ほか



注口土器と深鉢形土器

休館日 月曜日 問い合わせ 郷土博物館 ☎ 23-6859

青梅市の文化遺産10 磨製石斧とその再利用文化

遺跡の発掘調査を行うと、立木を伐るために利用したとされる磨製石斧が時々発見されます。

およその形に石を割り、細かく敲いて形を整え、磨くことにより刃先の切れ味を一層高め、美的感覚をも兼ね備えています。

今回は、斧の機能を生かした後に再利用を行った石器と、石斧としての存在を装飾品や祭祀具などの扱いに近付けた磨製石斧を紹介いたします。



郷土博物館で公開中

横から見ると、全体のなだらかさ比べ、先端の砥ぎ方が急に下がる部分があります。これは、刃毀れなどの砥ぎ直し部分と思われ、その後、砥ぎ直しも限界となり、二次的に利用されたものと推測します。

現存する刃の厚さは約2cmで、物を潰したり敲

問合わせ 郷土博物館 ☎ 23-6859

写真左は、畑中3丁目にある笹原遺跡(縄文時代中期・5千年～4千年前)で、昭和41年に採集された磨製石斧です。長さ18cm、最大幅7cm、厚さ4cm、重さ840gで、石質は、緑色岩という、市内では産出しない岩石で作られています。

大変精巧で、美意識にも長け、磨製石斧という道具から派生した、ある種の宝物ともいえます。

縄文時代の後期(4千年～3千年前)になると、装飾品的小な磨製石斧も作られます。

前記の石斧は、伐るという機能から敲くという機能に転用され、縄文時代にすでに再利用文化は存在したということをお私たちに教えてくれる重要な文化遺産の一つとなっています。

写真右は畑中2丁目にある橋上遺跡で昭和43年に採集された小型磨製石斧です。石質は蛇紋岩で、長さ5cm、最大幅2.6cm、厚さ9mm、重さ25gの大きさです。均整のとれた形は、左右対称の作りと側面の流線形に象徴